

「高齢者のポリファーマシー」

東京大学医学部附属病院老年病科教授 秋下 雅弘 先生

7月20日の内科医会学術講演会には、「高齢者の薬物療法ガイドライン2015」の作成に中心となって活躍された東京大学医学部附属病院老年病科教授の秋下雅弘先生をお迎えし、今問題となっているポリファーマシーに関し、非常に分かりやすく実際の臨床に役立つお話をいただいた。先生は「ポリファーマシーとは、薬物数が多いことではなく、それらによって生ずる薬物の副作用の増加、服薬アドヒアランス低下などによる不都合の発生を言い、多職種で対策を講じることが重要である」と話された。

さらに、高齢者のポリファーマシーは多病に由来するため、疾患単位でない包括的なアプローチが必要であると共に、優先順位を考慮した処方薬の絞り込みと生活習慣の見直しが求められると強調された。具体的には、認知機能障害などの老年症候群を来しやすい薬物として、ベンゾジアゼピン系と抗コリン系薬物は可能な限り使用を控えるべきとも話された。

ご講演後、出席者との討論があったが「フリーアクセスの医療制度のある日本では、調剤薬局を一局に限定させる以外に、多剤投与を予防する方法はないではないか」の質問に対し、「東京などの大都市では、多忙な人が多く、なかなか一局に限定させるのは困難である。しかし将来的には、行政と連携してそのような対策を取るのも一考であろう」と話された。東大医学部ご同門の小田原雅人先生の「糖尿病患者における心血管イベント抑制の為の血糖・脂質管理」のご講演と秋下先生のご講演はお互いに深くリンクし合っており、老人医療を考えるにあたって、非常に有益な学術講演会となった。

(吉村医院院長 吉村 信)